

特集1 動きだした異色商品の上場

グローバルスタンダードを日本から発信 木村中部商取引事務所に聞く

編集部

なぜ、ドル建て金を上場しようとしているのか。最初に発表した木村文彦中部商品取引所理事長に聞いてみました。

——なぜ、いまドル建て金なのですか。

木村 日本にはドル建ての金先物取引はありません。しかし、世界はすべてドル建てで取引していて、それがグローバルスタンダードになっています。そこで、ドル建てで取引し、世界に情報発信をしようと考えました。

「お隣の中国でも商品先物取引に力を入れていて、いずれ金をドル建てで上場してくる可能性もあり、このままでは後れをとるという危機感もありました。」

為替相場の影響を排除

それと、ドルと金は逆相関、つまりドルが上がる（＝円が下がる）と金が下がり、ドルが下がる（＝円が上がる）と金が上がることが多く、海外の金相場が上がってもドル安（＝円高）になると相殺されて、国内相場はあまり上がらず、利益が出にくいようになっています。ドル建てだとそのようなことがなくなります。

——しかし、ドル建てで買ったものを取引の終了後、円に替えれば同じことになりませんか。

木村 そのようなことを防ごうと、ドルの価格は限月ごとにフィクス（固定化）することにしました。そうすれば、いま言われたようなことは起こりません。それが自慢です。

——どのようなニーズをねらっていますか。

木村 海外に行ってドルを現在も保有してい

る人とか、FX（外国為替証拠金取引）をしている人などです。FXの証拠金残高は2,000億円あるとも

いわれていて、かなり期待できると思います。

中部商品取引所 木村文彦理事長



ヘッジニーズにも期待

——当業者のヘッジニーズは期待できるのでしょうか。

木村 ある大手非鉄会社の担当者と話したところ、個人でも会社でも参加したいと言っていました。それに、総合商社は現在、東京工業品取引所で金を大量に売買しており、これも期待できると思います。

——売買はどの程度できると考えていますか。

木村 分かりませんが、中部商品取引所で上場している軽油よりは多くなるのではないかと期待しています。ただ、灯油、ガソリンほどにはいかないと思います。

——上場のメドは。

木村 目下、担当官庁に説明している段階ですが、来年半ばごろに上場できればと考えています。

——成算は。

木村 あります。上場問題を審議する委員会には商社の担当者にも加わっていただきましたが、みんな熱心に論議してくれました。